



公益財団法人 横浜勤労者福祉協会
創立70周年記念誌作成実行委員会



いのちを支える
まちをつくる

公益財団法人 横浜勤労者福祉協会

創立70周年記念誌

このまちで、
安心して生きていく。

公益財団法人 横浜勤労者福祉協会は、
おかげさまで創立70周年を迎えました。

私たちが紡いできた70年の歴史は、
いわゆる「偉人」といわれる人がつくったものではありません。
「無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす地域の人々」の
一步一步の積み重ねによってつくられたものです。

だからこそこれからも、私たちは地域の人々に寄り添い、
地域の人々と力を合わせて安心して住み続けられる
まちづくりをすすめていきたいと考えています。

この記念誌では、私たちと地域の皆さんが協力して行ってきた
これまでの取り組みを振り返り、感謝の気持ちをお伝えすると共に、
これから新たな時代を一緒につくっていただく
皆さんへのメッセージを発信しています。

私たちの過去・現在・未来を思い浮かべながら
ご覧いただければ幸いです。



無料低額診療事業所として、
医療、福祉、介護にわたる総合サービスを提供し
共同組織とともに地域の患者・利用者様の生活を支える。

民医連綱領

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です。

戦後の荒廃のなか、無産者診療所の歴史を受けつぎ、医療従事者と労働者・農民・地域の人びとが、各地で「民主診療所」をつくりました。そして1953年、「働くひとびとの医療機関」として全日本民主医療機関連合会を結成しました。

私たちは、いのちの平等を掲げ、地域住民の切実な要求に応える医療を実践し、介護と福祉の事業へ活動を広げてきました。患者の立場に立った親切でよい医療をすすめ、生活と労働から疾病をとらえ、いのちや健康にかかわるその時代の社会問題にとりくんできました。また、共同組織と共に生活向上と社会保障の拡充、平和と民主主義の実現のために運動してきました。私たちは、営利を目的とせず、事業所の集団所有を確立し、民主的運営をめざして活動しています。

日本国憲法は、国民主権と平和的生存権を謳い、基本的人権を人類の多年にわたる自由獲得の成果であり永久に侵すことのできない普遍的権利と定めています。私たちは、この憲法の理念を高く掲げ、これまでの歩みをさらに発展させ、すべての人が等しく尊重される社会をめざします。

- 一、人権を尊重し、共同のいとなみとしての医療と介護・福祉をすすめ、人びとのいのちと健康を守ります
- 一、地域・職域の人びとと共に、医療機関、福祉施設などとの連携を強め、安心して住み続けられるまちづくりをすすめます
- 一、学問の自由を尊重し、学術・文化の発展に努め、地域と共に歩む人間性豊かな専門職を育成します
- 一、科学的で民主的な管理と運営を貫き、事業所を守り、医療・介護・福祉従事者の生活の向上と権利の確立をめざします
- 一、国と企業の責任を明確にし、権利としての社会保障の実現のためにたたかいます
- 一、人類の生命と健康を破壊する一切の戦争政策に反対し、核兵器をなくし、平和と環境を守ります

私たちは、この目標を実現するために、多くの個人・団体と手を結び、国際交流をはかり、共同組織と力をあわせて活動します。

公益財団法人
横浜勤労者福祉協会
創立70周年記念誌

目次	
創立70年のあゆみ	06
topics 01 新型コロナウイルス感染症対応とまちづくり	08
topics 02 訪問診療・アウトリーチ活動とまちづくり	10
topics 03 介護事業とまちづくり	12
topics 04 地域とすすめるまちづくり	14
other topics 近年の取り組み	16
town planning よこはま健康友の会の取り組み	18
Interview まちを支える医療	20
法人施設／概要	22
編集後記	23

創立70年のあゆみ



1953

汐田診療所開設



1974

(現)よこはま健康友の会設立

1979

汐田歯科診療所・梶山診療所開設



1983

脳血管センター開設



1986

汐田理学診療所開設

1987

汐田病院を汐田総合病院へと名称変更(199床)

2001

汐田総合病院新築移転(204床)・うしおだ老健やすらぎ(50床)開設



2002

社会福祉法人うしおだ設立

2006

汐田総合病院療養病棟増築(247床)みどり野診療所新築移転

うしおだ在宅クリニック開設

NPO法人ふれあい友の会設立

2012

公益移行認定により「公益財団法人横浜勤労者福祉協会」となる

汐田診療所・汐田歯科診療所・汐田ヘルスクリニックを合併し、うしおだ診療所(こころとからだと歯)を開設

2021

うしおだ総合ケアセンター開設
汐田総合病院増床(319床)

2020

新型コロナウイルス感染症神奈川県モデル重点医療機関協力病院認定

2018

梶山診療所新築移転



2023~2025

汐田総合病院及びうしおだ在宅クリニックの外来機能再編

1965

「無料低額診療事業」を開始

1960

汐田病院開設(32床)

1973

財団法人横浜勤労者福祉協会を設立



1982

清水ヶ丘セツルメント診療所合併

1994

汐田理学診療所から「汐田ヘルスクリニック」に名称変更

1995

株式会社(現一般社団法人)ヒューメディカ設立

1997

みどり野診療所合併

1999

訪問看護ステーション(三ツ池・みどり野・うしおだ)、介護支援事業所開設(うしおだ・みどり野)

2011

双葉町エコー検査開始

2007

汐田総合病院にて医師臨床研修開始

社会のできごと

1961

国民皆保険の実現

1964

東京オリンピック開催

1976

ロッキード事件

1988

東京ドーム完成

1992

バブル崩壊

1995

阪神・淡路大震災

2000

介護保険制度開始

2004

医師の臨床研修の必修化

2008

後期高齢者医療制度開始

2011

東日本大震災・計画停電
貧困率過去最悪

2020

新型コロナウイルス感染症確認



先は見えない。でも、
できることは、すべてやる。

3年以上に及ぶ新型コロナ感染症との闘い

次々と現場を襲った困難

2020年1月、国内における新型コロナ感染症(COVID-19)の感染者が初めて確認されました。発生初期段階では感染防護具の流通が止まり、慢性的な物品不足が発生したことで、感染患者への直接的な治療に従事する医師・看護師などは、自分だけでなく家族など身近な人へ感染させてしまう不安と専門職としての責務を全うしなければという気持ちの板挟みに悩みました。まん延期には、発熱症状で来院される患者様が毎朝殺到し、診療体制上の限界やコロナ検査試薬の供給不足により満足な診断ができなかったり、診察をお断りせざるをえないことが起こり、医療従事者としての不全感に苦しみました。さらに、病棟における3回のクラスター発生や、職員および職員家族の感染症罹患により、休職する職員が増加。人員体制は、厳しさを増しました。その様な状況にあっても、長期間の厳しい行動制限により、休日にリフレッシュすることも容易ではなく、心身の負担が増大しました。



行政・職員・地域と連携し、のべ10,000人超の患者様を診療

汐田総合病院をはじめ法人内すべての事業所で、患者様、地域住民、職員を守るための取り組みを行いました。院内感染を防止するための入館トリアージの実施や、敷地内にプレハブやトレーラーハウスを設置して発熱症状がある患者様のための簡易的な診察室の設置。新型コロナ感染症の診断のため、複数の検査を新たに導入しました。また、感染拡大の不安のある介護や保育、福祉施設から要請を受け、施設内の一斉検査に協力しました。さらに、一般の医療機関が診療を実施できないゴールデンウィークや年末年始などの連休、日曜日などに臨時外来も実施しました。また、検査で陽性となったあと、自宅で療養される方の見守り支援事業や、電話再診による健康状態確認にも取り組みました。入院医療では、神奈川県重点医療機関協力病院として、コロナ専用病床の確保にもつとめました。陰圧装置を急遽設置し、疑似症4床からスタートした病床数は、最終的には陽性者病床26床まで拡大。750名以上の患者様を診療。のべ10,000人以上の新型コロナ感染症や疑い患者様の診療を行いました。

ワクチン接種会場を、うしおだ総合ケアセンター内に

地域の方々からのワクチン接種の要望に応えるため、総合ケアセンタービル4階会議室に大規模接種会場を設置しました。よこはま健康友の会や、地域住民、連携のある建設組合や保育所・介護福祉施設などの役職員、のべ30,000人以上の方にワクチン接種を行いました。また、ネットや電話での予約が不慣れな方への予約支援も行いました。

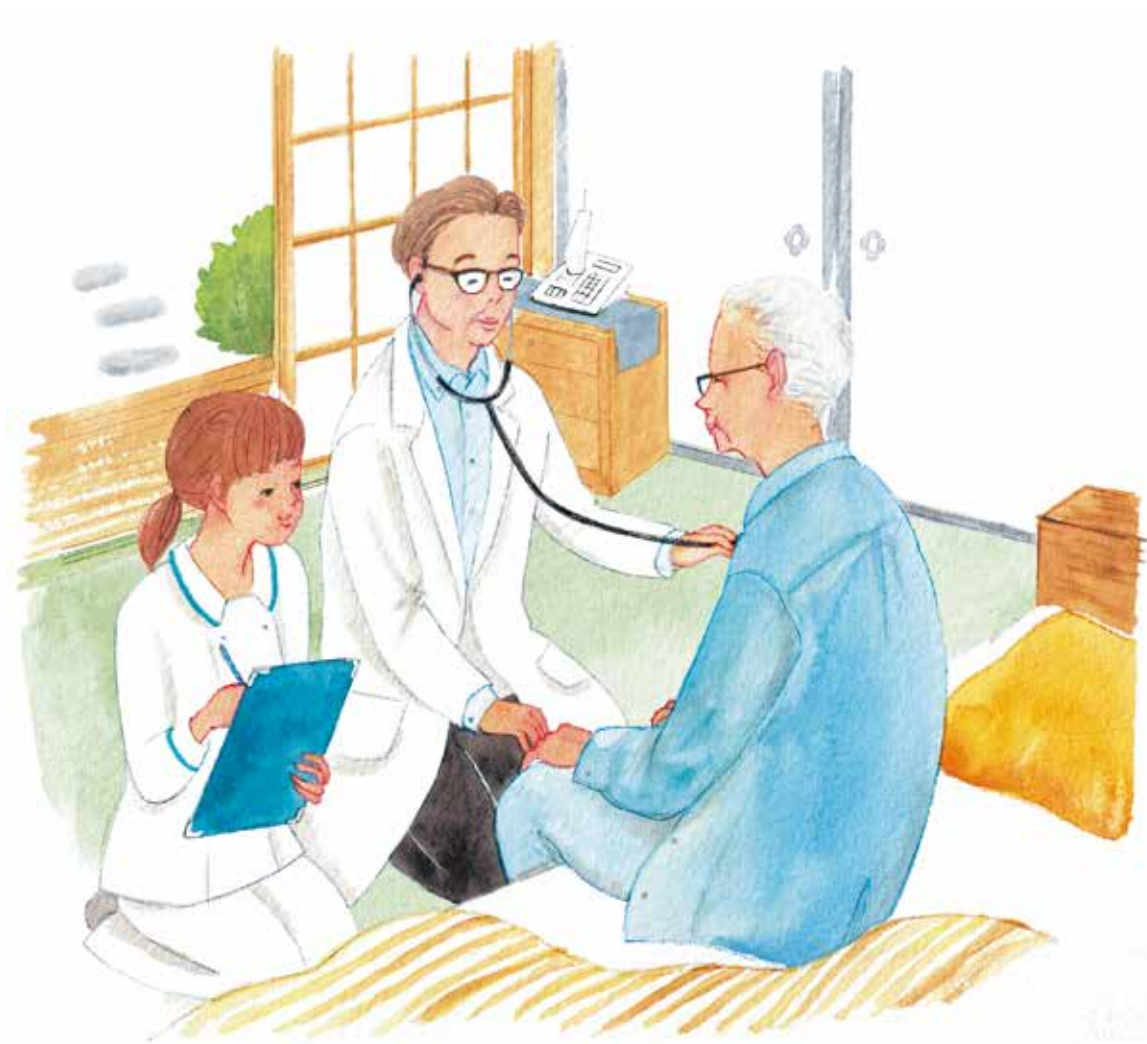


地域住民との交流が絶たれて

感染症まん延期は、近隣医療機関、介護施設との連携交流が大幅に制限された他、健康まつりなど定例行事が中止になることにより、パートナーとして位置付けていたよこはま健康友の会や地域住民との交流も絶たれてしまいました。また、感染対策上入院・入所中の方と外部の方との面会を制限せざるをえず、時間が許す限り電話をしたり手紙を書いたり、WEBシステムの導入でリモート面会を実施したりと、地域とつながり続けるためにできることをしました。病院までマスクや励ましのメッセージを届けてくれる住民の方たちにも支えられ、医師・看護師をはじめすべての職員で感染症と闘った3年間でした。

DATA

・発熱外来実施／のべ患者数10,000名以上、うち陽性者3600名以上
・コロナ陽性病床／最大26床
・コロナワクチン予防接種実施／のべ接種者数約30,000名
・自宅療養者見守り支援事業参加／のべ利用者数約30名



医療・介護・福祉で手を携え、
患者様のそばへ。

「病気とともに生きること」を支え続ける。

ご自宅に伺って診療をする往診は、1953年の汐田診療所開設当初より行ってきました。現在、ヒューメディアカピルの1階には、初代院長の桐山先生が往診する写真が飾られています。当時、往診は診療報酬が安く、ほとんどの医療機関で行われていませんでした。しかし、神経難病や脳血管障害後の重症患者様の「いのちと暮らし」を支えるためには必要であるとの考えから、赤字覚悟で続けていました。2006年に、通院が困難なため在宅療養する患者様が、安心して治療を受けられるよう「在宅療養支援診療所」が診療報酬上の制度として整備されまし

た。在宅介護保険サービスと合わせて利用してもらうことで、住み慣れたわが家で最期まで過ごしたいという方の希望を叶えることができるようになったのです。この頃から地域には、高齢、独居、認知症、がんなどの複合的な問題を抱える患者様が増えはじめたため、このような方々の希望や期待に応えるべく、私たちは汐田診療所開設当初の理念を受け継いだ「うしおだ在宅クリニック」を立ち上げました。その後、病院、診療所とも連携しながら訪問診療事業を拡大。現在は、強化型在宅療養支援診療所を中心に24時間365日住み慣れた地域で患者様が最

期まで安心して過ごせるよう支援することが私たちの使命であると考えています。



在宅療養のQOLを高める取り組み

私たちが訪問看護活動をはじめたのは、まだ診療報酬の裏付けがない1973年のこと。「地域の在宅療養の質を上げたい」という想いが原動力となり、自院の医師やソーシャルワーカーとの連携はもちろん、地域の開業医の先生や保健師、福祉事務所と一体となって活動を進めました。1975年には、在宅で寝たきりの生活が10年以上続く患者様の「お風呂に入りたい」という声に応えるべく、訪問入浴を実施。1980年代以降の法改正や介護保険制度が開始されてからは、高齢者だけでなく、精神や身体の障害を抱える方やお子さんへの訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問介護を通じて、地域で安心して暮らしていけるよう支援の幅を広げています。



認知症の患者様を、集中的にサポート

ご本人の意思が尊重され、可能な限り住み慣れた地域で安全に生活していくためには、認知症の早期発見と対応が重要です。この課題に取り組むために、うしおだ診療所では2015年9月より認知症初期集中支援チームを発足（横浜市委託事業）。「最近もの忘れがはじめて心配」と悩んでいるご家族やご本人に対し、医師、看護師、相談員など、複数の専門職がご自宅へ訪問し、必要に応じて適切な医療・介護サービスに繋げるよう活動しています。また、認知症の方が抱える問題は複雑で多岐にわたることが多く、医療や介護の専門職の方々が認知症ケアやサポートに悩む場面も少なくありません。そこで、うしおだ診療所では定期的に「認知症症例検討会」を開催し、専門職の知識や対応力の向上に貢献しています。





住み慣れたまちで、
安心して歳を重ねてほしい。



介護事業の要として、
地域の期待に応えていく。

2021年、病院の増床に伴い、介護老人保健施設(以下、老健)を含む4つの事業所と二つの団体が入る「うしおだ総合ケアセンター」を新築しました。「うしおだ総合ケアセンター」は、うしおだ老健やすらぎ、うしおだ在宅クリニック、うしおだ訪問看護ステーション、うしおだケアサービス(居宅介護支援事業所)、よこはま健康友の会、NPO法人ふれあい友の会が連携して、「無差別平等の地域包括ケア」、「安心して住み続けられるまちづくり」をすすめるための拠点となっています。

2040年には、団塊ジュニア世代が65歳となり、高齢者人口が首都圏を含めてピークに達すると予想されています。高齢者の増加による医療・介護需要が増大する一方で、現役世代の急減により、相対的に医療や介護従事者が不足する時代になることも懸念されています。このような時代に向けてどのようなまちをつくれば安心して歳をかさねることができるのか、多くの人々にとって大きな課題です。鶴見に住む

人々が、平凡な日々の暮らしに幸福を感じられる、そんなまちをつくっていくための拠点としてうしおだ総合ケアセンターの事業を発展させていきたいと考えています。



鶴見区唯一の老健「やすらぎ」

うしおだ老健やすらぎは、鶴見区唯一の介護老人保健施設として、2001年汐田総合病院3階部分に開設されました。「住み慣れた自宅で最期のときまで家族とともに暮らしたい」というご利用者様の声に応えるために、在宅復帰強化型施設として、医師による医学的管理の下、看護師や介護職による日常的なケア、自宅で暮らすための体力や基本動作を身に付けたり、重度化を防止したりするためのリハビリテーション、栄養管理サービス等を提供しています。また、無料低額介護老人保健施設として、生計困難な方への継続的な支援も行っています。さらに、退所後も自立した在宅生活が継続できるよう、短期入所や通所リハビリテーションサービスを提供するとともに、他のサービス機関と連携した総合的支援により、家族の介護負担の軽減等に努めています。うしおだ総合ケアセンター移転後は新たに、カルテの電子化、ケアマネジメント方式R4システムの導入、科学的根拠に基づくケアの向上等の取り組みをすすめています。

グループ法人の取り組み

NPO法人
ふれあい友の会

地域の小さな困りごとに耳を傾ける。

介護保険サービスの対象範囲外の高齢者の「小さな困りごと」を有償ボランティアにより支援することを目的として生まれた法人です。現在は、買い物や通院などの際の送迎支援及び、高齢者の孤立を防ぎ、交流の輪を広げる高齢者食事業や見守り・生活支援事業を行っています。

社会福祉法人
うしおだ

福祉・介護事業でまちづくりに取り組む。

地域に密着した介護・福祉事業を行うために生まれた法人です。「認知症になっても、障がいがあっても自分らしく生きる」ことを支えることを理念とした事業活動を行っています。また、地域の中で介護に従事する人を育てるために、定期的に「介護職員初任者研修」を開講しています。



地域で学び合い、
地域で育ち合う。

横浜勤労者福祉協会 まちづくり部

あらゆる人と、手を取りあって。

2021年4月、矢向地域での医療・福祉・介護の複合拠点としてオープンした「うしおだ総合ケアセンター」にあわせて、地域の患者様、利用者様の暮らしを支え「安心して住み続けられる」まちづくり活動を行っていく部門として、新たに「まちづくり部」が誕生しました。現在、社会保障の切り下げや新型コロナウイルスの拡大で、多くの方の暮らしや仕事がいっそう困難になる中、地域に存在する貧困や格差問題を捉え、よこはま健康友の会をはじめとした団体と手を取り合って、多くの

活動を行っています。とりわけ、地域で困窮している方を対象に実施した「食糧支援」や「何でも相談会」では、地域から実行委員の参加、介護・福祉施設、様々な企業様からの寄付、弁護士等の専門家の相談活動への参加があるなど、これまで以上に支援の輪が大きく広がりました。これ以外にも、子ども・子育て支援、他の医療機関や福祉施設との連携協力による地域の課題解決、職員の職能開発や研修実施など多彩な取り組みを行っています。私たちは、このまちづくり活動によっ

て生まれた、多くのつながりをかけがえのない財産としてこれからも大切に引き継ぎ、より強固なものに育てていきたいと考えています。



地域での学び合い、育ち合いを大切に

無料塾 [毎週木曜日開講]

2014年に「よこはま健康友の会」により開始された無料塾。会員や法人職員、元無料塾の生徒などが子どもたちの表情を見守りながら教えています。夏休みには、宿題やりきり週間や受験生のための特別講義も開催しています。



ファミリーヨガ [毎月第4土曜日]

汐田総合病院の患者様の声をもとに始めた教室。地域で活躍しているインストラクターが講師です。普段体を動かしていないお父さん、お母さんも子どもと一緒に頑張り、自然と子どもたちも笑顔になりました。



「川のまちエリア会議」との協力協働

「川のまちエリア会議」は、鶴見区矢向、鶴見市場ケアプラザエリア内の医療・介護事業所の連携会議として2014年に発足。地域で暮らす高齢者をどのように見守り、支えていくかについて区役所、社会福祉協議会、民生委員、自治会などと学び、解決策について検討しています。特に、認知症とその家族の人を「どう支えるのか」は、地域の大きな課題であることから、「迷っても安心できるまちづくり」をテーマに「認知症」役の人に声をかけ、保護し、通報する訓練を警察・消防の協力のもと実施。認知症の人が安心できるまちは、誰もが安心できるまち。鶴見をどんなまちにしたいのか、私たちは引き続き「川のまちエリア会議」に参画し、地域の皆様と協力協働を進めていきます。

地域で羽ばたく看護師の育成

地域の病院や施設等において様々な健康レベルにある患者様を全人的に捉え、生活機能の回復・維持を支援することができるジェネラリストナース（地域看護師）の育成は、看護の質の向上に直結することから、地域包括ケア時代の看護師育成において必須の課題となっています。汐田総合病院では、機能の異なる他の医療機関と連携し、地域看護師育成プログラムを策定。いち早くこの課題に取り組んでいます。これまでに、4名の看護師がこのプログラムに参加しており、地域包括ケア時代を支える看護師のキャリア形成に貢献することを目指しています。

うしおだ 診療所

法人創立地で 不易流行の取り組み

汐田診療所は、当法人最初の事業所として、鶴見区下野谷町に開設して以来、時代ごとに変化する地域住民の皆様のニーズに応えるべく、増改築を重ね、いのちと健康を守る活動を続けてきました。2012年には、地域住民の「ところとからだと歯」をトータルで守る診療所としてリニューアルすることを目的に、汐田診療所と汐田ヘルスクリニックと汐田歯科診療所を合併。うしおだ診療所に名称を変更すると共に、本町通に新築移転しました。現在は、内科・歯科外来及び訪問診療の他、健康診断や予防接種などの予防医療にも注力している他、精神疾患の再発防止や社会復帰支援のための「精神科デイケア」や、重度認知症の患者様やそのご家族を支援する「重度認知症患者デイケア」、要介護状態にある方に対し通い又は訪問にてリハビリテーションを提供するなど、病気や障害があっても地域で安心して住み続けることを支えるための様々な事業を行っています。また、支援の対象は、ご自宅で生活している方だけではなく、社会福祉法人うしおだをはじめとした地域の介護施設を利用している方にも広がっています。



汐田 総合病院

地域包括ケアへ向けた 増床と外来機能の再編

2035年までに鶴見区の高齢者人口は増加数・率ともに横浜市18区中で最も多くなると予測されています。そこで、汐田総合病院は、高齢者が安心して治療を受け、重度化を予防しつつ、在宅に戻る準備期間を手厚く支える病院として地域に貢献するという方針のもと運営を行ってきました。具体的には、高度急性期病院との円滑な連携ができる急性期病院機能を持ちながら、患者様の在宅復帰支援と在宅療養後方支援機能を併せ持つ地域包括ケア時代を支える多機能型の病院として、2006年から増床と病棟再編、専門職の増員をすすめ、現在319床の病床をもつ病院となりました。今後は、2025年を目途に法人内外の診療所等との連携をさらに強化し、外来機能を充実させること地域包括ケアシステムと地域の方々の健康増進に貢献したいと考えています。



梶山 診療所

リニューアルで さらなる地域貢献へ

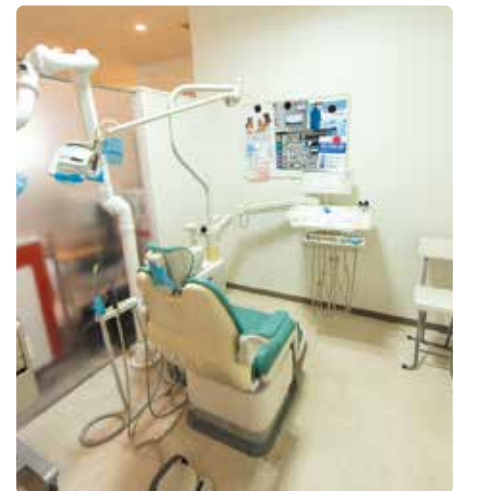
梶山診療所は1979年7月に「地域の皆様のよりどころとなる診療所」として鶴見区梶山地域に開設されました。2018年のリニューアルの際には、この開設当初の理念を踏襲し、よこはま健康友の会のサークル活動をはじめ、地域の多様な団体が集会等に活用できるように広い会議室や駐車場を設置しました。また近年では、地域で生活に困窮している方を対象によこはま健康友の会の方と協力し、食料を配布する活動や弁護士による相談会に取り組んでいます。加えて、外来や電話での生活相談、慢性疾患を抱えながら受診が中断している患者様宅への訪問活動など、地域の相談窓口としての機能を果たし、地域に貢献しています。医療活動では、外来に加えて健康診断・予防接種等の予防医療の普及を重視。骨粗鬆症や動脈硬化の早期発見・早期治療につなげるために骨密度検査・頸動脈エコーなどに力を入れています。



歯科

歯科医療の充実

当法人における「歯科」の歴史は古く、1975年に当時の汐田病院内に開設したのがはじまりです。開設当初は、虫歯治療・歯周病治療・入れ歯治療などの一般歯科が中心でしたが、汐田総合病院では、2014年からインプラント治療を実施するための環境整備と技術研修をすすめ、2016年には歯科口腔外科へ標榜を変更しました。また、近年では口の健康と全身の健康状態との関連が注目されるようになり、内科と歯科の連携、歯科と介護の連携強化が求められるようになってきました。そこで、「口腔内から患者全体を診る」をモットーに、ご入院患者様やうしおだ老健やすらぎ等の介護施設のご利用者様に対し、周術期の口腔ケアや栄養・摂食嚥下機能を向上させるためのサポートに注力しています。うしおだ診療所は、高齢者が多い地域に位置し、外来通院が困難となっている高齢者や要介護者の歯科医療を充実させるため、訪問診療にも力を入れています。食事がうまくとれない方へのサポートを行ったり、誤嚥性肺炎予防のための口腔ケアや入れ歯の調整を行ったりしています。また認知症や要介護状態が進行する前に、電動歯ブラシの使い方を覚えていただくなど、患者様自身が自分の歯と健康を守る力をつけるための支援も進めています。



新鶴見支部

人道橋建設にむけて



法人と共に取り組んだ水道橋署名活動、テレビの取材にも応えました。みんなの思いが実った「鶴見人道橋」、2026年の完成予定です。末吉地域にお住まいの方からも待ち望む声が聞こえています。

まちかど健康チェック



近隣のスーパー店頭などで血圧・体脂肪測定など地域の方々に無料で健康チェックを実施。みなさんの「健康づくり」に対する関心を高めていただく機会になればと考えています。

コロナ感染対策・防護ガウンづくり



2021年、新型コロナ感染対策の資材が不足する中で、防護ガウンづくりに協力しました。

梶山支部

認知症サポーター養成講座



認知症になっても安心して住み続けられるまちづくりをめざして、地元でなじみのお風呂屋さんで認知症サポーター講座を開催しました。

梶山診療所健康まつり



演芸会模擬店、検査体験会などを通じて地域のつながりづくりと健康への関心度アップに貢献することを目的に「健康まつり」を開催しています

読み聞かせの会



2023年から月1回、教育分野での仕事経験がある会員等が、3歳位までの子どもを対象に、絵本の読み聞かせや童謡・手あそびを行っています。

汐田支部

「りんごカフェ」オープン



誰でも気軽に行ける、そこに行けば人がいて話ができる、それが「りんごカフェ」です。新聞やテレビ等の話題から健康に関する事までにぎやかにおしゃべり。決まったプログラムがないことや、診療所の医療専門職に相談できたりするところが人気です。

うしおだ診療所と協働した食料支援活動



新型コロナウイルスのまん延により、生活に困窮している方の支援や相談活動に継続して取り組むため、うしおだ診療所の取り組みに参画し、定期的に食料支援や相談活動を実施しています。

セツルメント支部

大人気バザー



診療所の前で行われる支部のバザー、毎回多くの人で賑わいます。衣類や食器などもあり多彩ですが、定例で行っている手作り小物サークルの品も大変人気があります。

診療所職員と一緒に お宅訪問



毎年秋には、友の会の会員と職員と一緒に地域の患者様宅を訪問し、健康づくりに不可欠な予防接種や健康診断受診についてご案内したり、診療所に対するご要望をうかがったりしています。

みどり野支部

保健講座開講



久しぶりの開催となった「保健講座」では、定員30人がすぐに満員に。再会を喜ぶ笑顔であふれていました。リハビリのスタッフが講師となって、認知症予防講座、コグニサイズに取り組みました。

高齢者昼食会



33年の歴史がある昼食会。1か月前から献立を考え、お楽しみ会や演者の選定をし、値段も据え置きのまま続けています。調理や送迎担当のボランティアも多くいます。

“地域生活支援病院”であり続ける。

汐田総合病院 院長 宮澤由美



地域連携パスに取り組む。

1991年から汐田総合病院で勤務し、脳神経内科やリハビリテーション科の診療を通じて、主に脳血管障害の患者様に関わってきました。また認知症に関しても支援を行いながら2冊の書籍を執筆。これは私のライフワークでもあります。特にこの10年は、地域包括ケアの充実に向けて回復期病床の整備と地域連携に力を入れてきました。「顔の見える連携」を心がけ、脳卒中の患者様の地域連携パスをこの地域でどう活用していくかを中心的課題に、地域の中核病院である済生会横浜市東部病院との相互理解・機能分化をすすめてきました。院長になってからは、「医療を通じて住民の生活を支援する病院」それが汐田総合病院のあり方だと思い、「地域生活支援病院」と名づけました。

病の人を救うのは、私たちの天命。

2020年、新型コロナウイルスのまん延にともない当院は「重点医療機関協力病院」として感染の疑いがある患者様の病床を整備しました。さらにワクチン接種、発熱外来も実施。同年7月に院長となった私は最初にコロナ患者様の対応をしました。防護服は十分になく、ゴミ袋でつくったガウンやクリアファイルでつくったフェイスシールドで…。「死ぬかもしれない。」という恐怖と戦っていました。でも、病の人を助けるのは医療従事者の天命です。できることはすべてやろうと考えていました。私は阪神・淡路大震災と東日本大震災、どちらのときも子どもがまだ小さく支援をしきれなかった。だから、今回少しでも人々の役に立ちたかったのです。ワクチン接種会場で偶然、20年ぶりくらいに知り合いに再会したとき、私たちは医療従事者であると同時に地域とともに生きる生活者なのだと実感しました。

病院らしい外来機能の追求を。

私たちが守り続けている姿勢は、地域住民の命と健康を無差別平等に守ること。とりわけ経済的に苦しい人や社会的弱者といわれる人たちに寄り添います。一方で、時代とともに求められる病院機能も模索しています。これからは外来機能分化と地域連携が課題。外来診療において、法人内・地域の診療所と役割を分担し、救急医療や高度な医療機器を使用した検査や入退院前後の外来受診、抗がん剤治療や小手術など病院でしかできない診療で、地域に安心を提供します。

Profile

1962年福岡県生まれ。日本神経学会専門医、日本認知症学会専門医。香川医科大学医学部（現香川大学医学部）卒業。著書「認知症に向き合う本ー治療・予防・介護のアドバイス」「社会とともに歩む認知症の本」（共に新日本出版社）



患者様を診るために、「地域」を見る。

公益財団法人 横浜勤労者福祉協会 理事長 野末浩之



診察室だけでは、治せない。

横浜勤労者福祉協会は、地域の方々の「安心してかかれる医療機関をつくりたい」という願いから生まれました。だから私たちは、地域を大切にします。患者様のなかには、生活困窮者やご家族の問題などを抱える方も多くいます。私たちは「気になる患者さん訪問」としてそういう方々のもとへ、こちらから出向く。どんな暮らしをしているのか、何を食べているのか。医師や看護師、ソーシャルワーカーなどととも患者様の住まいを訪問し、患者様や住まいの状況を五感で感じ、診療に活かしています。病気は、診察室だけでは治せないのです。患者様がどのような状況の方であっても、医療者として治療に全力を尽くすよう心がけています。

地域の安全保障への取り組み。

この10年、地域の人々の「安全保障」に取り組んできました。東日本大震災の被災地、そして福島第一原発事故の避難者の方々への支援、原発のない社会・脱炭素社会を実現するための運動を継続的に行っています。また「戦争は最大の健康被害である」という事実に基づき、過去の戦争被害の歴史を学び、すべての国民が戦争被害にあわないよう、核兵器廃絶など各種の平和活動にも参加しています。当法人も加盟している神奈川民医連では「平和学校」を開講しており、若手職員が毎年参加して神奈川県内や沖縄の戦争遺跡・軍事基地等の現地に出向き学んでいます。これもひとつのアウトリーチ活動だと考えています。「戦争はないほうがいい」という全員が持つその思いをどう実行するのか考えることに意義があり、職員の教育にも有効だと考えています。

友の会と、二人三脚で。

「よこはま健康友の会」と私たちは二人三脚でまちづくりに取り組んでいます。たとえば子どもの貧困を社会問題として捉えた「無料塾」。講師は友の会会員や元教師、職員ボランティアです。ボランティアで勉強を教えていた人が病院の研修医になった、というようなこともありました。ほかにも、親子クリスマス会やベビーヨガ教室など、地域とつながる機会をつくることも私たちの大切な役割です。

Profile

1961年、神奈川県生まれ。精神科医。帝京大学医学部卒業。川崎協同病院での勤務や精神科の外部研修を経て現在、神奈川民医連会長、（公財）横浜勤労者福祉協会理事長。横浜市内各区で精神保健相談、精神障害者作業所、グループホーム嘱託医を務める。



法人施設

公益財団法人 横浜勤労者福祉協会



■ 汐田総合病院
319床（一般急性期104床／地域包括ケア病棟157床／回復期リハ病棟58床）



■ 梶山診療所



■ みどりの診療所
ヘルパーステーションみどり野



■ 清水ヶ丘セツルメント
診療所



■ うしおだ総合ケアセンター
■ 介護老人保健施設
うしおだ老健やすらぎ（50床）
■ うしおだ在宅クリニック
■ うしおだ訪問看護ステーション
■ うしおだケアサービス



■ うしおだ診療所（こころとからだと歯）

グループ法人

社会福祉法人 うしおだ

うしおだ介護支援センター／ヘルパーステーションうしおだ／小規模多機能こすもす／
グループホーム菜の花の家／グループホームひまわりの家／ハイムさざんか／ハイムつばき／ハイムさつき

NPO法人ふれあい友の会

協力団体

一般社団法人 ヒューメディカ
よこはま健康友の会

法人概要

名称	公益財団法人 横浜勤労者福祉協会
所在地	〒230-0001 横浜市鶴見区矢向一丁目6番20号 最寄り駅：JR南武線【尻手駅】下車 改札を出て左に徒歩10分
TEL/FAX	TEL：045-574-1013 FAX：045-574-1059
設立	1953年（昭和28年）12月1日
役員等	理事長：野末浩之、専務理事：佐藤真琴 評議員：20名、理事：21名、監事：4名（2023年6月現在） 病院：1、医科診療所：5、介護老人保健施設：1、 訪問看護ステーション：1、ヘルパーステーション：1、 居宅介護支援事業所：1 計 10
共同組織の状況	2023年3月現在 会員数：21,006世帯
職員数	2023年6月現在 942人

編集後記

創立70周年の節目を迎え、記念の一環としてこの周年誌を発行いたしました。これまで創立50周年、60周年と10年毎に記念誌を発刊してまいりました。振り返る10年の間には、医療を取り巻く環境は大きく変わり、病院の機能分化の推進、地域レベルで在宅医療と高齢者への医療・生活サービスを推進する地域包括ケアシステムの広がりがありました。当法人においては、それらの外的環境変化に対し、常に新しい状況への対応を先んじて考え、新たな投資と自己変革を行い続けてきました。2012年には3つの診療所機能をひとつにまとめたうしおだ診療所をオープンし、2017年には梶山診療所を新築移転しました。また2021年にコロナ禍の中でうしおだ総合ケアセンター

の建設と病院の増床を進められたことは、これから10年間の法人グループ発展の礎として大きな出来事だったと思います。これからの医療・介護・福祉事業は、患者様、利用者様を対象にするだけでなく、地域の健康づくり・まちづくりとしての発揮も期待されることでしょう。70年前に職員3名で始まった「無差別・平等」を実践してきた歴史をさらに発展させ、最後まで住み慣れた地域で安心して住み続けられるまちづくりを、地域・共同組織・あらゆる団体と連携して進めていきたいと思っています。文末になりますが、この記念誌の作成にあたり、ご協力をいただいた多くの皆様に心より感謝申し上げます。

「公益財団法人 横浜勤労者福祉協会 創立70周年記念誌」作成実行委員会
委員長：佐藤 真琴 編集・発行：公益財団法人 横浜勤労者福祉協会 発行日：2023年9月